



これは愛の物語なのか。

いや愛欲の物語か・・・。

古典中の古典である源氏物語をそんなふうにするのは不謹慎かもしれない。

ただ八木邸の米蔵のぼんやりと灯された明かりの中で

女君が語る物語を聞いているうちに、そんな妖しい思いがきざず。

語りは騙りにも似て

つい誑かされて夢とも幻ともつかぬものに憑りつかれたのかもしれない。

演者の力量を褒め称えるべきか、こちらの心の浅はかを恥じるべきか。

いずれにせよ少しばかり異なる時であったことは確かなことだ。

源氏物語 ひとり芝居と朗読 in 八木邸米蔵

脚本・出演 三田乙絵

(4/24の公演より)